

# 広報ふえふき Fuefuki

## 令和3年度 決算特集号

令和3年度決算が市議会第3回定例会で  
認定されました。  
一般会計の決算を中心に、  
笛吹市の決算概要を紹介します。



### Contents

02 決算の概要

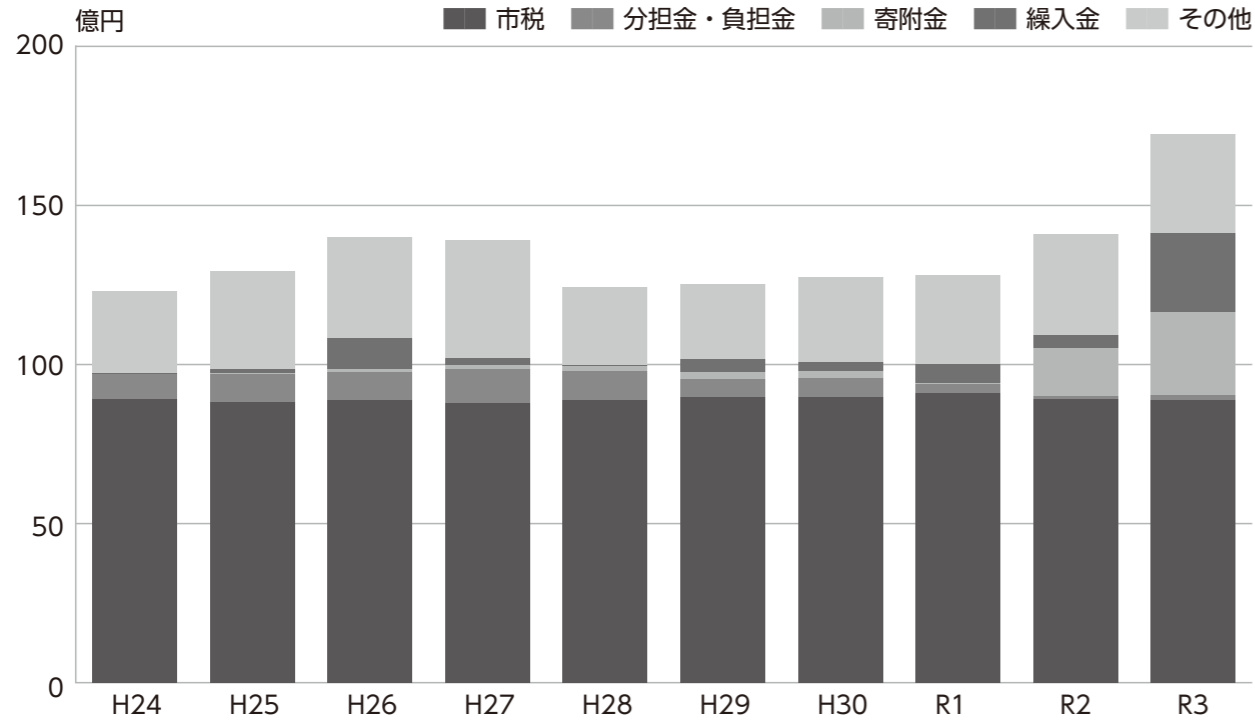
06 市の基金と市債(借入金)

07 財政健全化判断比率等

08 令和3年度の主な事業

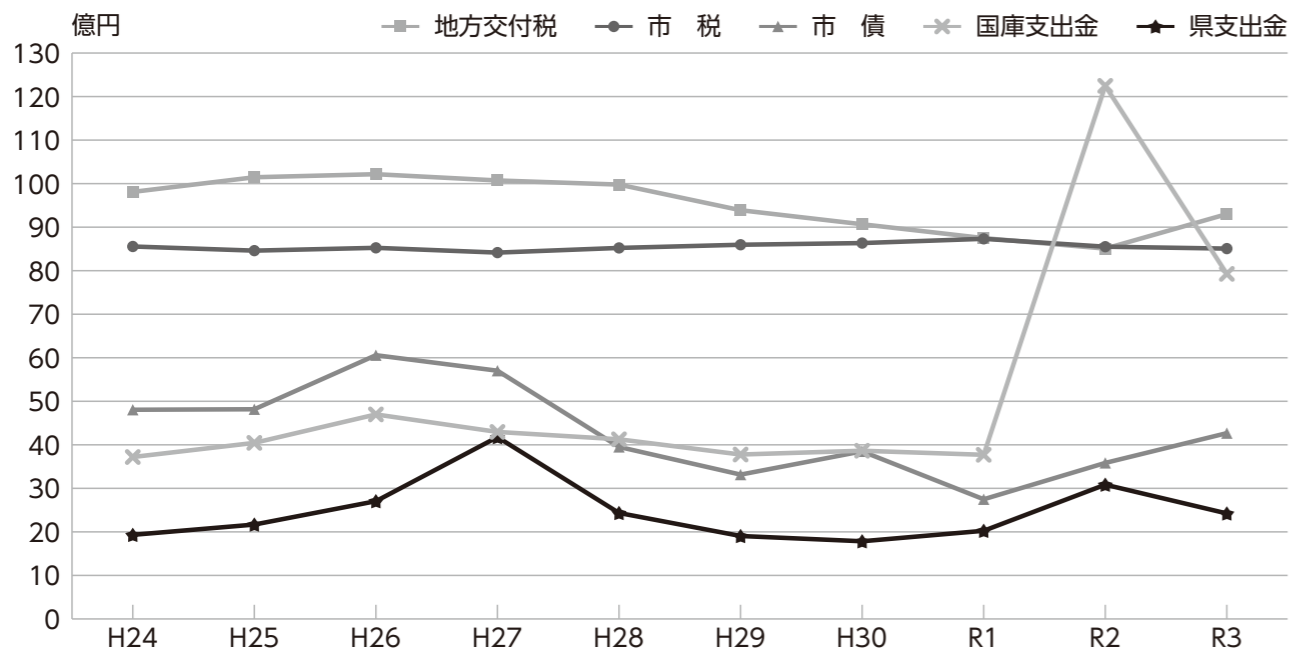
## 一般会計 自主財源の推移

自主財源は、165億3,300万円となり、前年度より30億100万円増加しました。主な要因は、ふるさと納税寄附金が10億5,400万円増加したことや、また、事業費の増加に伴い基金からの繰入金が増加したためです。



## 一般会計 主な歳入科目決算額の推移

自主財源の根幹である市税については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う特例措置による軽減等の影響もあり、前年度から若干減少しました。国庫支出金については、令和2年度において国の特別定額給付金事業が実施されたため、前年度から大幅に減少しました。

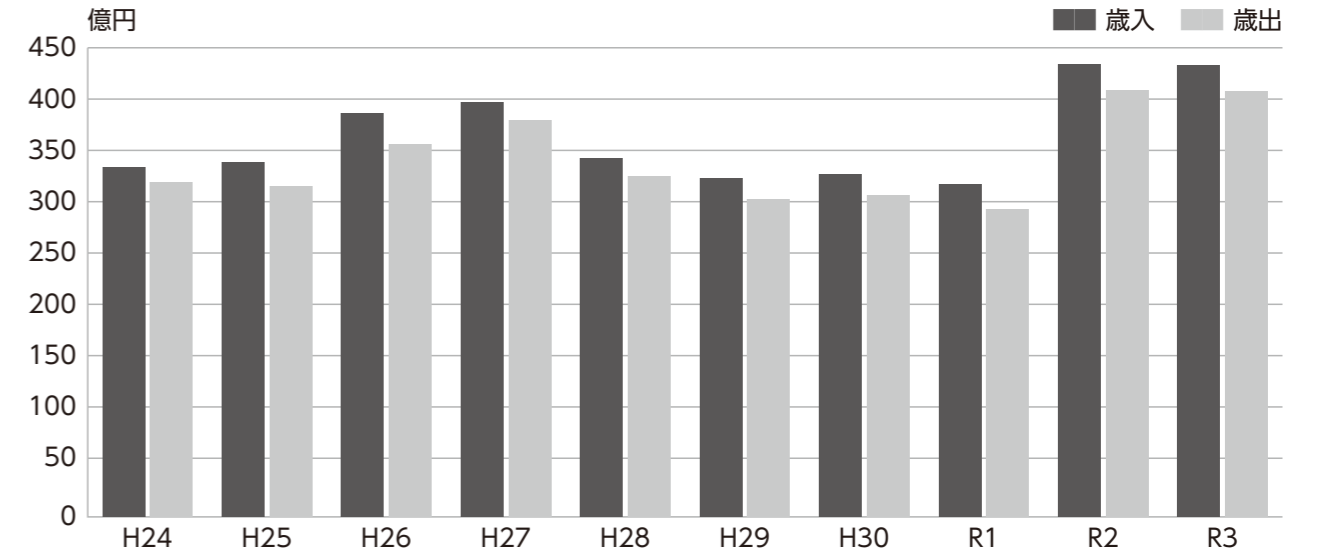


## 令和3年度 決算概要

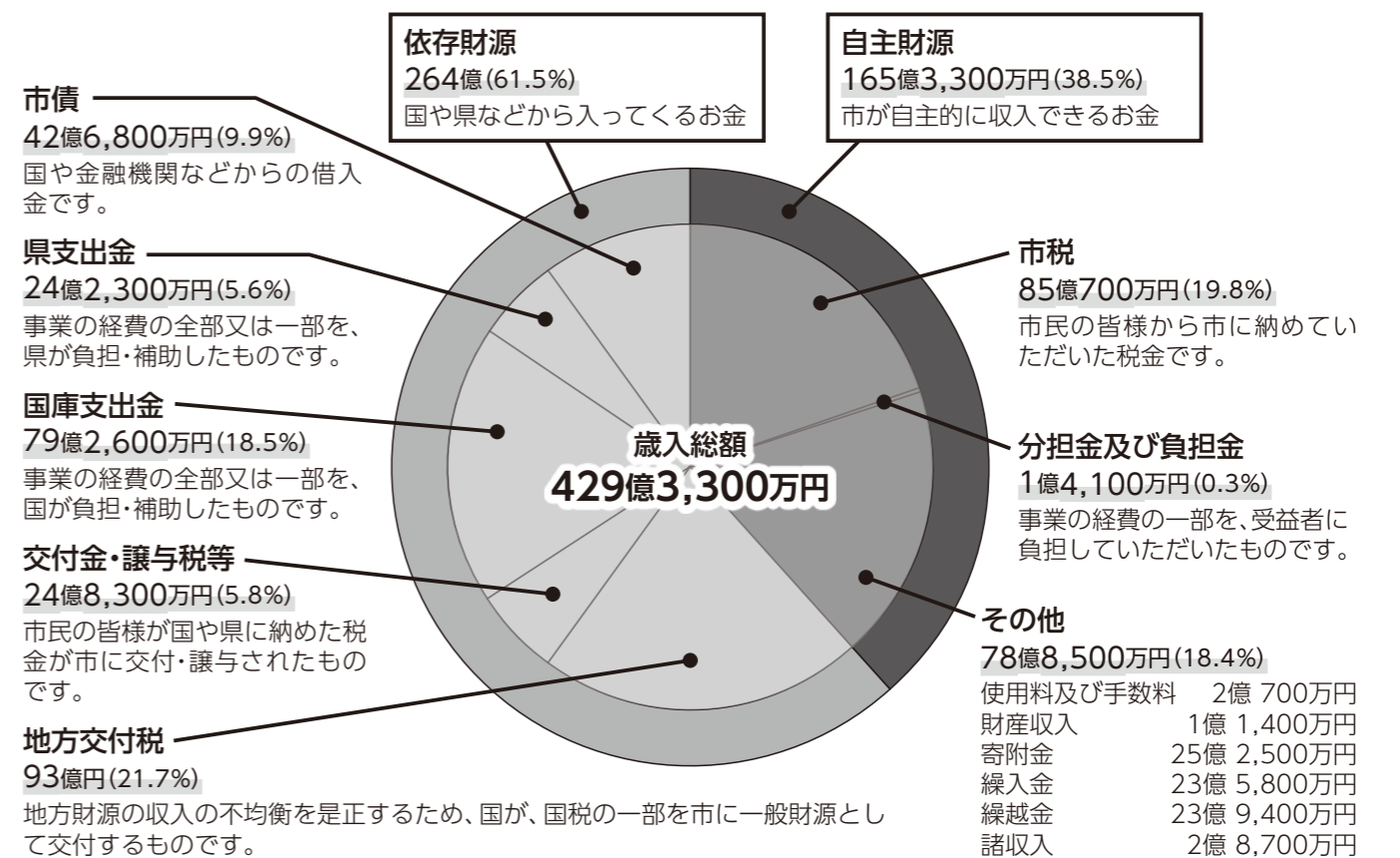
令和3年度決算が、市議会第3回定例会で審議され、認定されました。ここでは、市民の皆様から納めていただいた税金がどのように使われ、また、市の財政が今どのような状況にあるのかをお知らせします。

## 一般会計 歳入・歳出の決算規模

令和3年度一般会計決算は、歳入総額が429億3,300万円、歳出総額が404億5,600万円でした。歳入から歳出を差し引いた形式収支は、24億7,700万円となっています。形式収支から、繰越財源5億7,200万円を差し引いた実質収支は、19億500万円の黒字となりました。



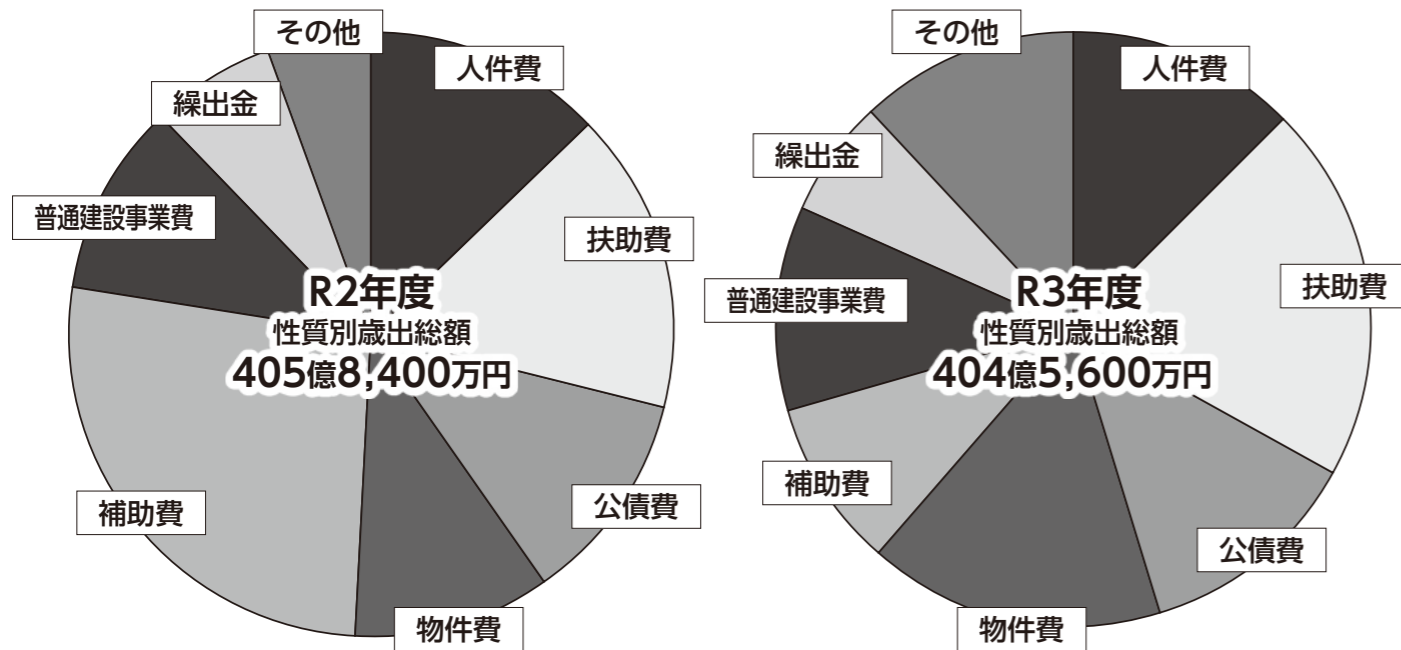
## 一般会計 歳入の内容



## 一般会計 歳出の内容(性質別)

性質別歳出とは、経費の経済的性質に着目した歳出の分類で、年度別の比較や他の自治体との比較、分析によく用いられます。

ここでは、令和2年度決算と対比してみました。



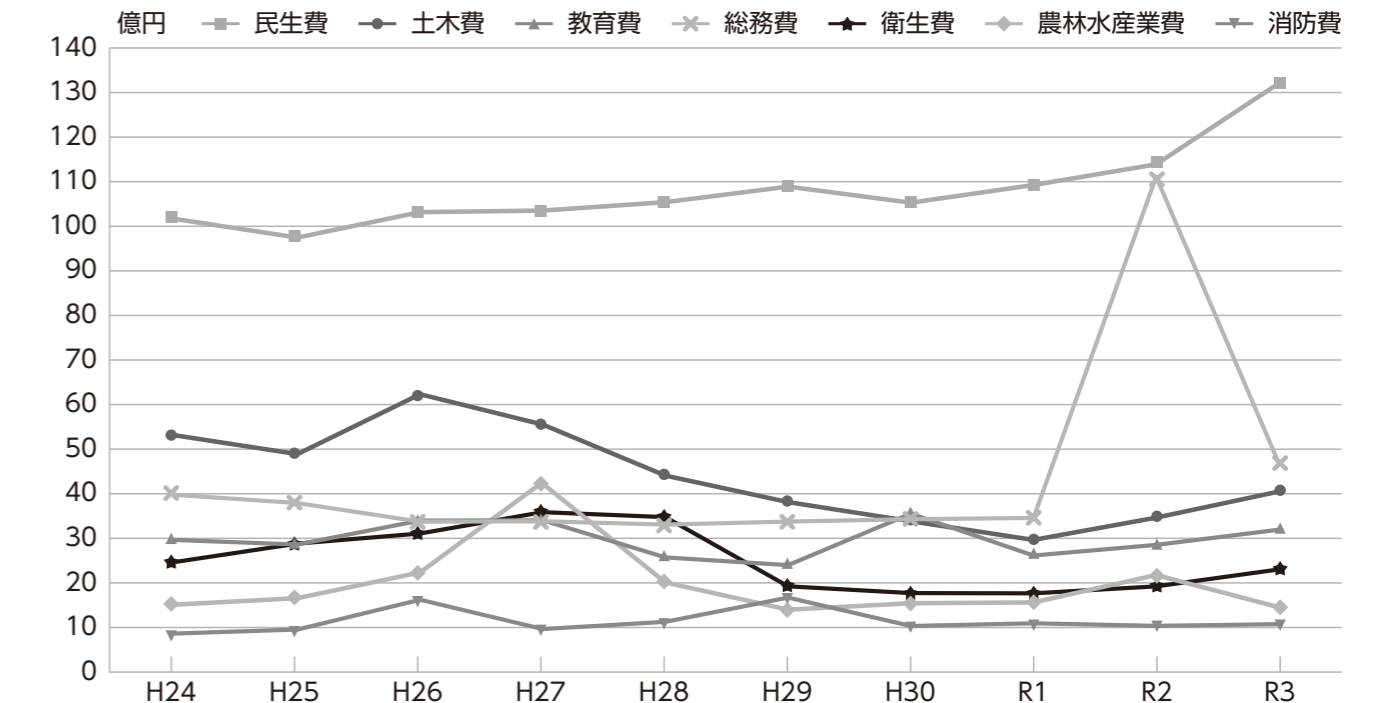
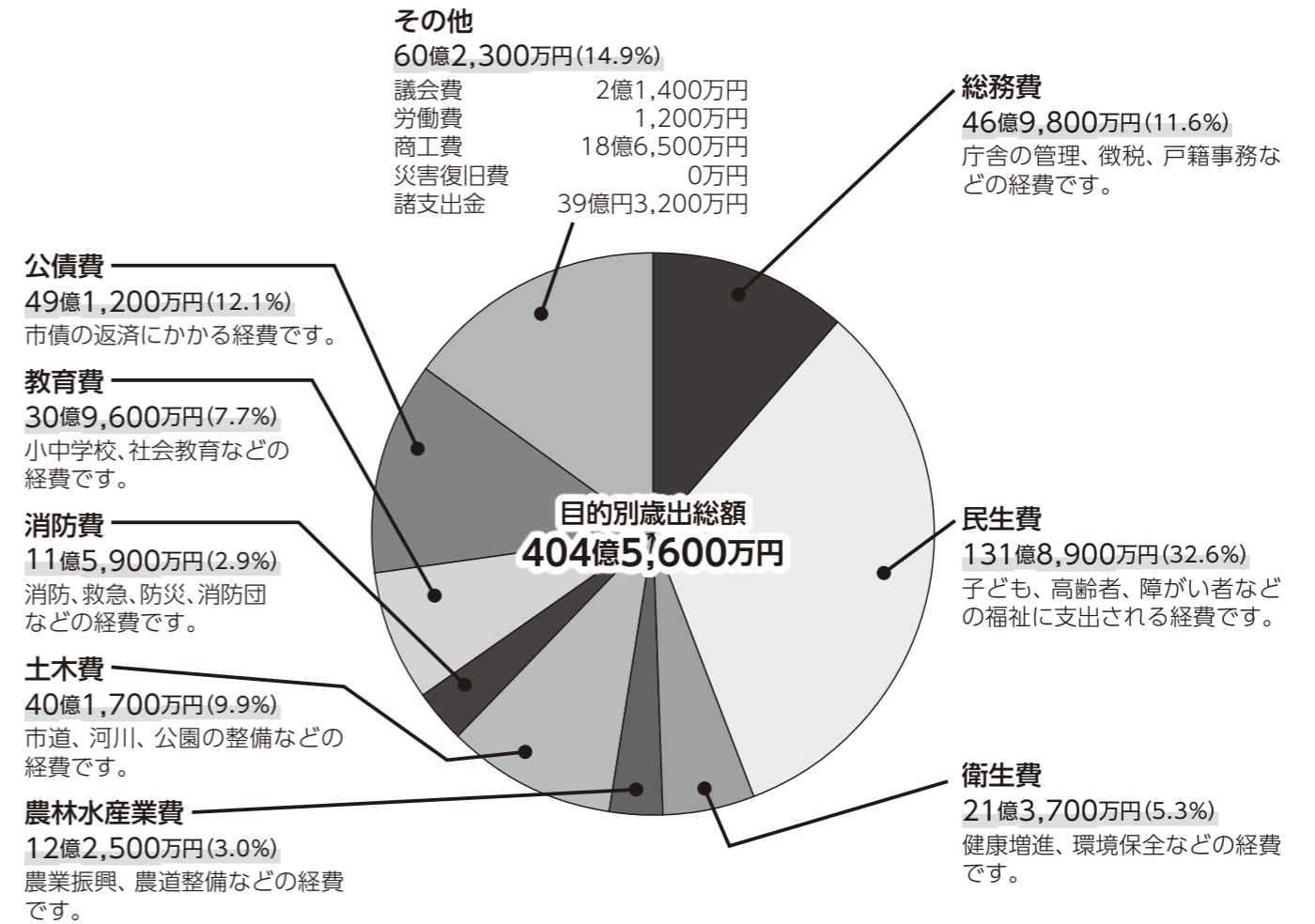
| R2年度      |             | 収入済額 | 構成比   |
|-----------|-------------|------|-------|
| 人件費       | 51億8,700万円  |      | 12.8% |
| 扶助費       | 66億円        |      | 16.3% |
| 公債費       | 45億2,800万円  |      | 11.2% |
| 物件費       | 43億9,000万円  |      | 10.8% |
| 補助費       | 107億5,100万円 |      | 26.5% |
| 普通建設事業費   | 42億3,700万円  |      | 10.4% |
| 繰出金       | 26億4,700万円  |      | 6.5%  |
| その他       | 22億4,400万円  |      | 5.5%  |
| その他<br>内訳 |             |      |       |
| 維持補修費     | 2億700万円     |      | 0.5%  |
| 災害復旧費     | 2,600万円     |      | 0.1%  |
| 積立金       | 13億9,400万円  |      | 3.4%  |
| 出資金       | 6億1,700万円   |      | 1.5%  |
| 合計        | 405億8,400万円 |      | 100%  |

| R3年度      |             | 収入済額 | 構成比   |
|-----------|-------------|------|-------|
| 人件費       | 51億4,300万円  |      | 12.7% |
| 扶助費       | 82億9,600万円  |      | 20.5% |
| 公債費       | 49億1,200万円  |      | 12.1% |
| 物件費       | 65億9,900万円  |      | 16.3% |
| 補助費       | 36億9,600万円  |      | 9.1%  |
| 普通建設事業費   | 44億7,100万円  |      | 11.1% |
| 繰出金       | 26億3,400万円  |      | 6.5%  |
| その他       | 47億500万円    |      | 11.7% |
| その他<br>内訳 |             |      |       |
| 維持補修費     | 1億8,100万円   |      | 0.4%  |
| 災害復旧費     | 0万円         |      | 0%    |
| 積立金       | 39億3,200万円  |      | 9.8%  |
| 出資金       | 5億9,200万円   |      | 1.5%  |
| 合計        | 404億5,600万円 |      | 100%  |

人件費……… 職員の給与、諸手当等の経費です。人事院勧告に伴う期末手当引き下げ等により4,500万円減少しました。  
 扶助費……… 社会福祉、高齢者福祉、児童福祉等の経費です。子育て世帯、住民税非課税世帯等への臨時特別給付金事業等により増加しました。  
 公債費……… 市債の返済にかかる経費です。借換債、臨時財政対策債の償還額の増加により3億8,400万円増加しました。  
 物件費……… 消耗品費、光熱水費等の消費的な経費です。新型コロナウイルスワクチン接種費用、笛吹市消費喚起キャンペーン事業等により増加しました。  
 補助費……… 各種団体等への補助金や負担金の経費です。令和2年度に特別定額給付金事業が行われたため、70億5,500万円減少しました。  
 普通建設事業費……… 施設、インフラの整備にかかる経費です。浅川中学校校舎等改修事業、笛吹みんなの広場整備事業等により増加しました。  
 繰出金……… 一般会計から特別会計に繰り出す経費です。  
 その他……… 維持補修費、災害復旧費、積立金、出資金等です。ふるさと納税寄附金の増加により、まちづくり基金積立金が増加しました。

## 一般会計 歳出の内容(目的別)

歳出を目的別にみると、最も大きな割合となったのは民生費で131億8,900万円となり、子育て世帯への臨時特別給付金事業で10億3,300万円、住民税非課税世帯等への臨時特別給付金事業で5億4,300万円支出したため、昨年度より16億7,300万円の増加となりました。また、次に割合が高かった公債費は、借換債の3億300万円の増加等により、昨年度より3億8,400万円の増額となりました。



# 財政の健全度を判断する指標を公表します。

財政健全化判断比率とは、財政健全化法により算定・公表が義務付けられている、市町村の財政が健全かどうかを判断する指標です。主な指標としては、「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4つの指標があります。

| 指標       | 算定結果<br>( )内は前年度数値 | 早期健全化<br>基準 | 比率の説明   |
|----------|--------------------|-------------|---|
| 実質赤字比率   | —<br>(—)           | 12.53%      | 一般会計の赤字額の程度を市の財政規模と比較して指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。  |
| 連結実質赤字比率 | —<br>(—)           | 17.53%      | 一般会計、特別会計及び公営企業会計の赤字額や黒字額を合算して、市全体の赤字の程度を指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。                                |
| 実質公債費比率  | 8.2%<br>(9.1%)     | 25.0%       | 一般会計の借入金の返済額と公営企業会計や一部事務組合の借入金の返済金のうち、一般会計から支出されたと認められる額の合計額を市の財政規模と比較して指標化し、資金繰りの安全度を示す比率です。 |
| 将来負担比率   | 5.5%<br>(24.9%)    | 350.0%      | 将来負担すべき額から市の貯金などを差し引いた額を、市の財政規模と比較して指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示す比率です。                                |

## 指標の推移

実質公債費比率と将来負担比率について、令和3年度は両指標とも減少し、特に将来負担比率については、将来負担額の減少及び基金残高の増額等により大きく減少しました。各指標とも早期健全化基準を大きく下回っているため、健全な財政状態が維持されていることが判断できます。

## 特別会計・企業会計の決算状況

| 特別会計名                   | 収入済額        | 支出済額        |
|-------------------------|-------------|-------------|
| 国民健康保険特別会計              | 84億6,947万円  | 80億5,625万円  |
| 介護保険特別会計                | 70億2,159万円  | 66億158万円    |
| 介護サービス特別会計              | 1,248万円     | 885万円       |
| 後期高齢者医療特別会計             | 15億9,331万円  | 15億7,405万円  |
| 農業集落排水特別会計              | 7,093万円     | 4,166万円     |
| 笛吹市境川観光交流センター特別会計       | 1億867万円     | 8,455万円     |
| 森林経営管理特別会計              | 1,795万円     | 588万円       |
| 恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計) | 7,355万円     | 793万円       |
| 合計                      | 173億6,795万円 | 163億8,075万円 |

収益的及び資本的収入が支出に不足する額は、補てん財源等で措置しました。  
 ※(1)…各事業を運営していくための施設の維持管理や人件費等の会計  
 ※(2)…資本を形成するための工事や大型備品等の更新のための会計

| 企業会計名         | 区分          | 決算額           |
|---------------|-------------|---------------|
| 水道事業会計        | 収益的<br>※(1) | 収入 17億2,601万円 |
|               |             | 支出 16億6,249万円 |
|               | 資本的<br>※(2) | 収入 3億7,457万円  |
|               |             | 支出 8億4,688万円  |
| 春日居地区温泉給湯事業会計 | 収益的         | 収入 7,011万円    |
|               |             | 支出 5,897万円    |
|               | 資本的         | 収入 0万円        |
|               |             | 支出 1,384万円    |
| 公共下水道事業会計     | 収益的         | 収入 19億8,890万円 |
|               |             | 支出 18億1,026万円 |
|               | 資本的         | 収入 9億7,729万円  |
|               |             | 支出 16億4,083万円 |
| 簡易水道事業会計      | 収益的         | 収入 2,664万円    |
|               |             | 支出 2,365万円    |
|               | 資本的         | 収入 243万円      |
|               |             | 支出 244万円      |

## 一般会計 基金現在高の状況

| 基金名    | 令和2年度末     | 令和3年度末      | 増減額        |            |
|--------|------------|-------------|------------|------------|
| 財政調整基金 | 37億2,870万円 | 37億2,960万円  | 90万円       |            |
| 特定目的基金 | 減債基金       | 17億9,281万円  | 17億9,575万円 | 294万円      |
|        | 公共施設整備等基金  | 39億3,069万円  | 35億1,483万円 | △4億1,586万円 |
|        | 地域振興基金     | 49億2,189万円  | 49億5,688万円 | 3,499万円    |
|        | まちづくり基金    | 16億5,697万円  | 37億 99万円   | 20億4,402万円 |
|        | その他        | 21億7,033万円  | 21億6,618万円 | △415万円     |
| 基金現在高  | 182億 139万円 | 198億6,423万円 | 16億6,284万円 |            |

基金とは、家計で言うと預貯金のことです。財政調整基金は、年度間の財源の不均衡を調整するとともに、予期しない収入の減や支出の増に備えるための基金です。それ以外の基金は、特定目的のために資金を積み立て、必要に応じて取り崩しを行う基金です。令和3年度は、39億3,198万円を積み立て、22億6,914万円の取り崩しを行いました。

## 市全体 市債(借入金)現在高の状況

| 会計名               | 令和2年度末      | 令和3年度末      | 増減額         |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| 一般会計              | 404億2,261万円 | 399億4,794万円 | △4億7,467万円  |
| うち合併特例債           | 192億 925万円  | 183億8,353万円 | △8億2,572万円  |
| うち臨時財政対策債         | 148億6,639万円 | 145億4,842万円 | △3億1,797万円  |
| 公営企業会計            | 210億5,484万円 | 197億4,270万円 | △13億1,214万円 |
| 上水道・簡易水道          | 78億4,620万円  | 75億4,066万円  | △3億 554万円   |
| 下水道               | 130億1,910万円 | 120億3,794万円 | △9億8,116万円  |
| 農業集落排水            | 1億8,954万円   | 1億6,410万円   | △2,544万円    |
| 市債現在高合計           | 614億7,745万円 | 596億9,064万円 | △17億8,681万円 |
| 臨時財政対策債を除く市債現在高合計 | 466億1,106万円 | 451億4,222万円 | △14億6,884万円 |

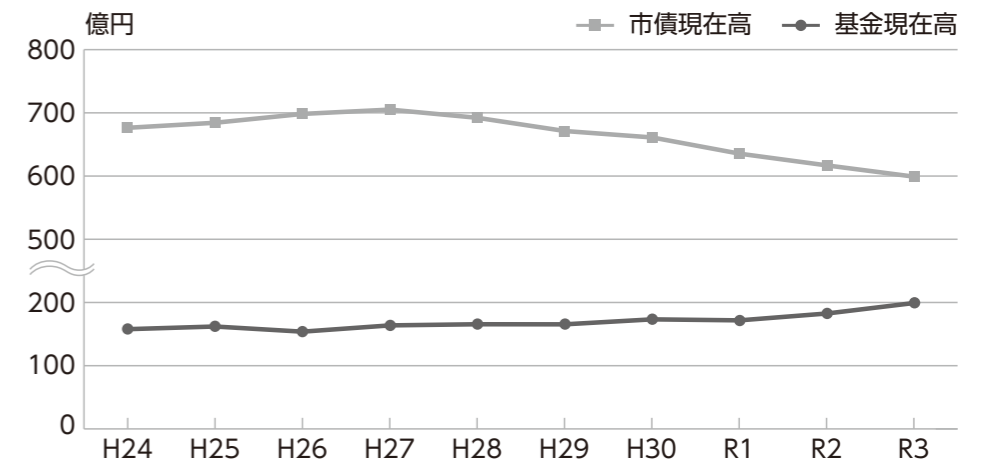
市債には、長く利用する施設の建設に当たって、資金の借入をすることにより、後年度の償還を通じて将来その施設を利用する人にも、建設の費用を公平に負担していただくという、世代間の負担の公平性を保つ役割があります。

令和3年度の現在高は596億9,064万円で、昨年に引き続き減少しました。

## 基金と市債(借入金)現在高の推移

基金の現在高は、積立額と取崩額の差により、16億6,284万円の増額となり、残高の総額は198億円を超えました。主な要因は、ふるさと納税寄附金のまちづくり基金への積立額が増加したことによります。

市債の現在高は、過去に発行した市債の償還額に対して、新規に借り入れた市債が少ないため、減少しています。



## ハートフルタウン笛吹！商品券事業

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市民、市内事業所に対し、家庭での生活基盤の維持と地域経済の下支えとなる施策を実施しました。

ハートフルタウン笛吹！商品券事業では、生活基盤支援と地域経済支援を目的に、1人当たり10,000円の商品券を交付しました。



## 新型コロナウイルス感染症予防接種事業

新型コロナウイルス感染症から皆様の生命を守るため、感染防止対策を徹底して講じてきました。

また、ワクチン接種について、市内医療機関での接種に加え、市で集団接種会場を開設し、ワクチン接種を希望する方に、接種機会を提供できるよう、体制の整備を行いました。



## 笛吹みんなの広場整備事業

子どもからお年寄りまで、誰もが手軽に利用でき、思い思いの利用を通じてのコミュニケーションの場として、また、各種イベントを通して、利用する人々の交流、ふれあい、にぎわいの場として、令和3年11月12日に笛吹みんなの広場をオープンし、広場の利用例としてオープニングイベントを実施しました。



## 笛吹市消費喚起キャンペーン

非接触型決済による感染リスクの軽減と、生活基盤支援及び地域経済支援を目的に、6月1日から8月31日までの3か月間、市内店舗での飲食、買い物に対して「PayPay」を利用した際に、最大で支払額の30%を還元する「笛吹市消費喚起キャンペーン」を実施しました。



## 新道峠展望台整備事業

令和3年7月に、芦川町新道峠に富士山の絶景を望むFUJIYAMAツインテラスを整備するとともに送迎バスの運行、アクセス道路の整備を行い、市の新たな観光拠点を創出しました。



## 石和西小学校学童保育室改修事業

石和西小学校の空き教室で実施していた、児童の健全な育成と、保護者の子育て、仕事の両立を支援するための学童保育について、旧給食棟を改修し、より快適な育成環境の整備と受け入れ可能人数の増加を図りました。

